

# 2023年度 第1四半期 決算概要

2023年8月10日

沖電気工業株式会社

## 2023年度 第1四半期決算の概要

- 前年比 増収、貸倒引当金の戻入もあり前年比増益。
- 売上高は部材不足による生産減影響からの回復などにより増収。
- 営業利益は前期調達部材のコスト増影響や人件費増があるものの、上記の一過性要因もあり増益。

(単位：億円)	23年度 実績	22年度 実績	前年比
売上高	815	781	+34
営業損益	0	△30	+30
経常損益	△3	△31	+28
(親会社株主に帰属する) 四半期純損益	△2	△32	+30
USD平均レート (円)	137.4	129.6	+7.8
EUR平均レート (円)	149.5	138.1	+11.4

- 当第1四半期は売上高815億円、営業利益0億円、四半期純損失は2億円となりました。
- 売上高は昨年苦しんだ生産減影響が改善し前年比34億円の増収。営業利益も前年比30億円の増益でしたが、これは貸倒引当金43億円の戻入という一過性の要因が大きく、引当金を除くベースでは「昨年度手配した高コスト部材」と「今年度からスタートさせた人材投資によるコスト増の影響」により前年対比減益でした。
- 尚、貸倒引当金戻入の詳細は後程ご説明致します。
- 為替レートはUSD137.4円、EURは149.5円となっております。

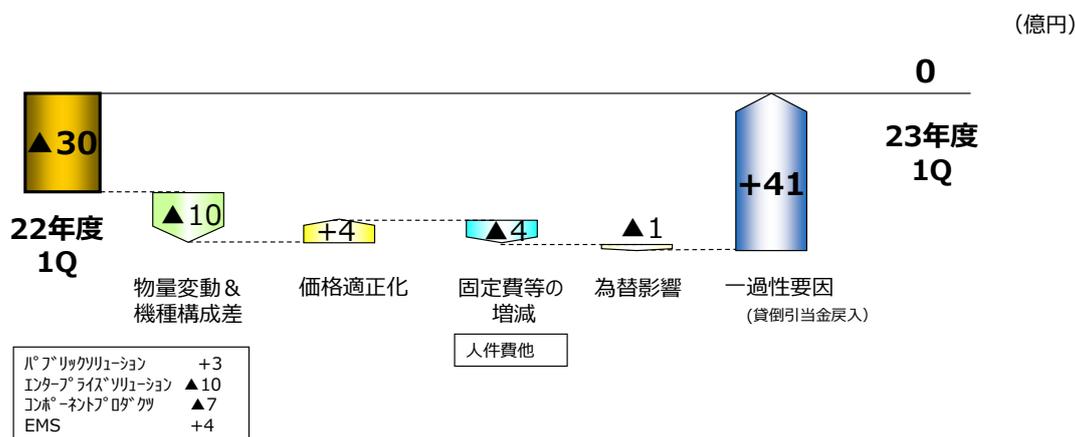
## 2023年度 第1四半期 セグメント別売上高/営業利益

(単位：億円)			23年度 実績	22年度 実績	前年比
パブリック ソリューション	売上高 営業利益		193 △1	193 △3	±0 +2
エンタープライズ ソリューション	売上高 営業利益		274 19	233 △16	+41 +35
コンポーネント プロダクト	売上高 営業利益		170 △8	192 △1	△22 △7
EMS	売上高 営業利益		177 6	162 1	+15 +5
その他	売上高 営業利益		1 △1	1 1	±0 △2
消去・本社費	営業利益		△14	△12	△2
<b>連結合計</b>	<b>売上高 営業利益</b>		<b>815 0</b>	<b>781 △30</b>	<b>+34 +30</b>

- 3ページはセグメント毎の売上高と営業利益です。
- ご覧の通り、増収増益がEMSとエンタープライズ、但し一過性要因を除いた実質ベースではエンタープライズは増収減益。
- パブリックは前年比横ばいでコンポーネントは減収減益となっております。
- 詳細は後程セグメント別業績でご説明いたします。

## 2023年度 第1四半期 営業利益の変動要因

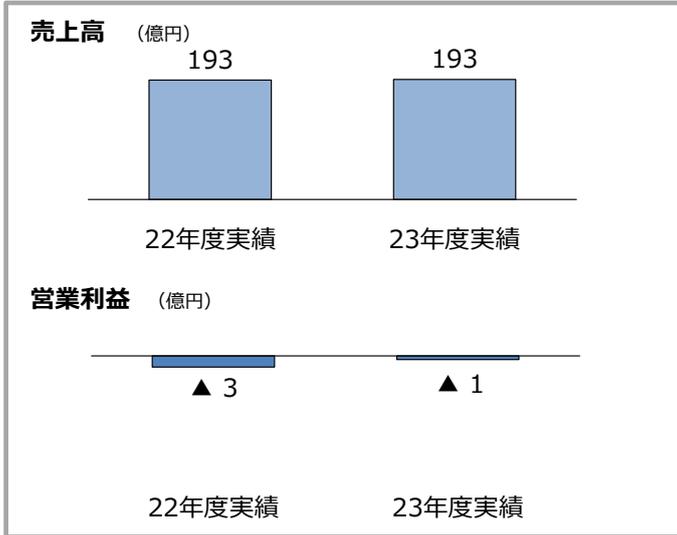
- エンタープライズソリューションは部材不足による生産減影響からの回復や工事・保守の物量増などプラス面があるものの、ハード製品の部材コスト増影響によりマイナス。
- EMSは部材不足による生産減影響からの回復など物量増でプラス。
- 中国ATMの債権に対する貸倒引当金を戻入。



- 4ページ 第1四半期の営業利益の変動要因です。
- 物量変動 & 機種構成差ですが、プラスに貢献したのはEMSとパブリックソリューション。エンタープライズソリューションは、物量は増加しましたが、先程、概要でお話した高価格の部材影響により前年対比ではマイナスとなりました。
- 固定費等の増減は人材への投資を中心に人件費などで約10億円増加しましたが、コスト削減等でネットでは4億円の増加となりました。
- 一過性要因、貸倒引当金の戻入についてご説明します。OKIは2015年より売上債権の代金回収について訴訟を提起していましたが、6月13日に広東人民法院において当社の主張をほぼ全面的に認める最終判決が出されました。詳細は6月20日に東証に開示した資料をご参照下さい。
- この判決を受けて今期決算への影響を精査して参りましたが、今回の判決が最終判決であること、また、保全として価値のある物的担保を押さえていること、今後は原則中国での強制執行手続きを経ての回収手続きとなることを踏まえ、現地のコンサルタントや専門家と慎重に回収のシナリオと可能性を検討し、回収の見積りを行い43億円の戻入を行っております。
- OKIは既に競売手続きの申請も済ませており、これまで同様売上債権の全額回収に向けて全力を尽くして参る所存です。

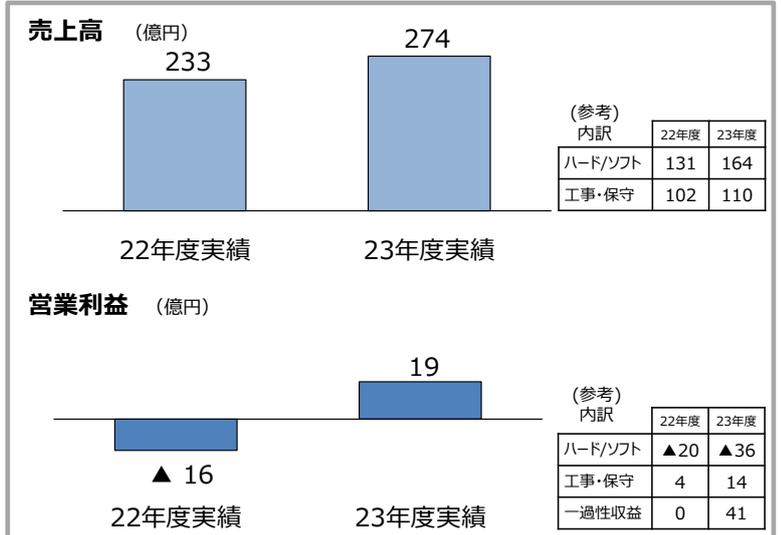
**パブリックソリューション**

- 防衛向案件は増加、一方で通信キャリア向け案件の減少もあり、全体では売上、利益とも前年並。



**エンタープライズソリューション**

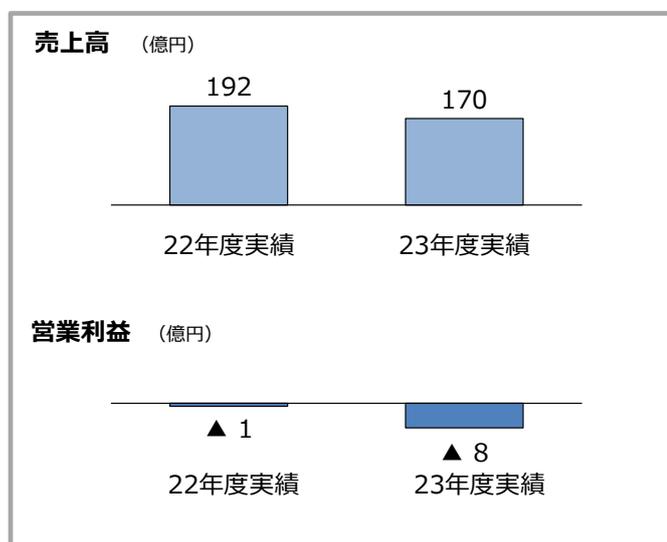
- 部材不足による生産減影響の改善などにより増収。
- 営業利益はハード製品で部材コスト増影響があったものの、工事・保守で一部カバー。貸倒引当金の戻入もあり増益。



- 5ページ、セグメント毎のご説明になります。
- まずはパブリックソリューションです。
- この四半期では防衛向案件が増加した一方で通信キャリア向け案件の減少もあり、セグメント全体では売上高は193億円と前年レベル、営業利益は前年比わずかに改善となっております。
- 続きましてエンタープライズソリューションです。
- 売上高は生産減影響から回復し前年比増加となりました。尚、エンタープライズソリューションは年度で見れば前年対比650億円の増収を計画しているため、40億円の増収は小さく見えるかもしれませんが、内部の第1四半期のラップとしてはほぼ計画通りとなっております。
- 営業利益はハード/ソフト事業では昨年比減益となりましたが、4月に実施した組織改正、バリューチェーン見直しに伴う工事・保守事業の利益増で一部を打ち返しました。これに加えて、先ほどご説明した貸倒引当金の戻入というプラス要因もあり、結果として前年比増益となりました。
- 今後は四半期を追うごとに昨年対比での売上げの嵩が増加して行きます。これらの受注済大口案件の刈り取りを確実に進めることで計画を達成して参る所存です。

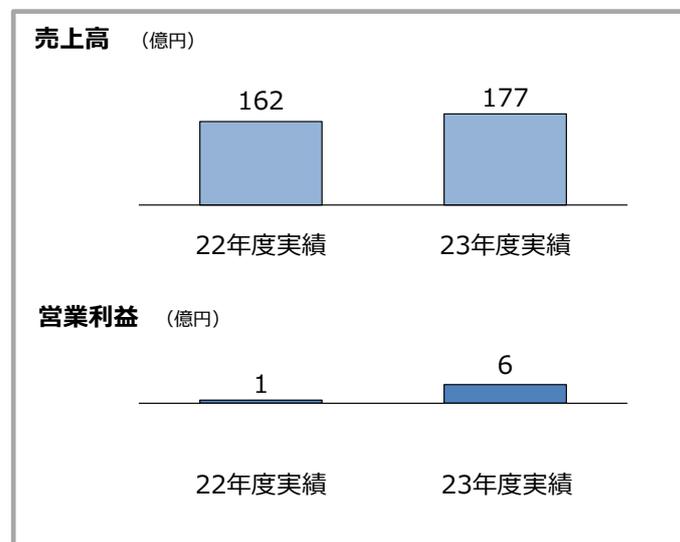
## コンポーネントプロダクツ

- IoTはサプライチェーン影響の改善等によりプラスも、プリンターは前期の値上前の駆け込み需要の反動もあり、全体では減収減益。



## EMS

- サプライチェーン影響の改善もあり、増収増益。国内市場を中心としており、需要も概ね堅調。

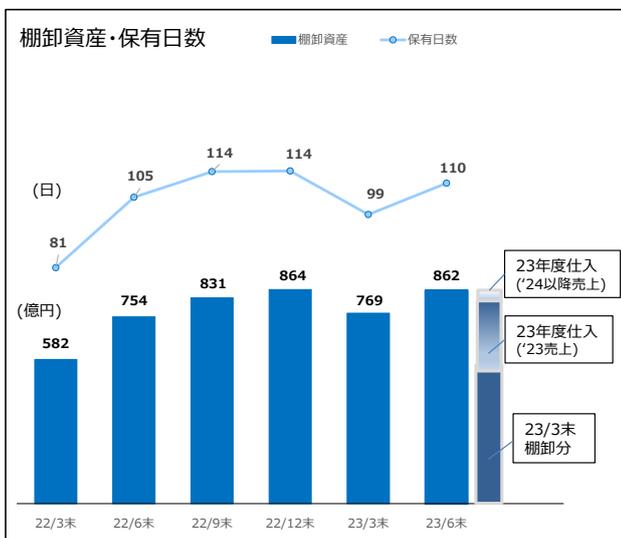


- 6ページ、まずはコンポーネントプロダクツです。
- この四半期は事業部門全体で減収減益と冴えない数字でした。
- 資料に記載はありませんが簡単にサブセグメントの内訳を補足致しますと、プリンター事業は前年の値上前の駆け込み需要の反動もあり減収減益で着地。
- IoTは前年度のサプライチェーン影響からの改善もあり前年比わずかながら増収となりましたが利益は改善途上となっております。
- 最後にEMSです。
- 半導体(メモリー)など市場全体を見れば一部に需要減の傾向はあるものの、当社のEMSが得意とするマーケットは引き続き堅調な動きとなっております。加えて昨年度苦戦したサプライチェーン影響の改善もありこの四半期は順調に増収増益となりました。

## 2023年度 第1四半期 B/Sの概要

- 棚卸資産は2Q以降売上増もあり3月末比増加も、正常化に向けて前年同月比の増加額は減少。
- 自己資本比率は0.6ポイント増。

(単位：億円)	23年 6月	23年 3月	前年度末比
流動資産	2,205	2,302	△97
固定資産	1,660	1,602	+58
資産の部	3,865	3,904	△39
流動負債	2,015	2,053	△38
固定負債	844	859	△15
負債の部	2,859	2,911	△52
自己資本	1,004	991	+13
その他	2	2	±0
純資産	1,005	993	+12
負債及び純資産合計	3,865	3,904	△39
自己資本比率(%)	26.0	25.4	+0.6
DELシオ(倍)	1.2	1.2	±0



- 固定資産廃棄損として約10億計上 (特定顧客向サービス用資産、新システムへの切り替えによる)。

- 続いて7ページ、バランスシートです。
- 昨年膨らんだバランスシートの適正化、中でも在庫の圧縮は大きな課題です。現在の状況を少し丁寧に説明いたします。
- まず流動資産ですが97億円の減少となっております。資料に記載はありませんが、当社は第4四半期の駆け上がりが大きいため、通常ですと第1四半期の流動資産は150億円から200億円の減少となります。昨年度の第1四半期は在庫が大幅に増加したため、流動資産の減少はほぼゼロでした。今期の97億円の減少という数字はまだまだ充分ではありませんが正常化に向けた相応の動きと考えております。
- また棚卸資産のトレンドを右側の表にお示ししてありますが、この四半期の末残は昨年ピークとお話した第3四半期の残高とほぼ同じ水準となっております。又、この862億円という水準は期初の計画と比べても若干の増加となっております。
- 計画よりも棚卸資産が増えた主な要因は長納期の部材が予想以上に入り出したことがあります。従来より2~3年後の生産計画を踏まえ、納入に時間がかかる部材は積極的に発注をかけてきました。今年度に入り昨年まで全く入らなかった部材が現在では当初想定以上のスピードで入ってくるようになりました。その為現在はその納期調整を行っているような状況です。
- 参考までに表の右端の棒グラフで現在の在庫状況のイメージを示しています。一番下の濃い色の部分、昨年度の在庫はほぼ予定通りに減少しております。増加しているのは中段やや薄い色の部分、今年度の生産に必要な在庫と一番上の薄い部分、只今お話した長納期部材となります。こ

の上の部分計画比増となった要因です。

- OKIとしては、事業パートナーであるサプライヤー様との良好な関係を保ちつつ納期の調整を行うことと計画通りの出荷を行うことで引き続き在庫の圧縮を図って参ります。
- バランスシートの説明に戻りまして、固定資産ですが、長期貸倒引当金の戻し入れ影響などもあり58億円増加しております。
- もうひとつ、固定資産に関連した特筆すべき事項として、サービス事業関連で固定資産の廃棄10億円をこの第1四半期で行っています。これはお客様と新規に納入するサービス事業が固まったことから旧中継システムの廃棄をするものでサービス事業の強化に資するものです。
- これらの結果総資産は前期末から39億円減少の3,865億円。
- 自己資本は13億円増加して1,004億円。
- 結果、自己資本比率は26%、D/Eレシオは1.2倍となっております。

## 2023年度 第1四半期 キャッシュフローの概要

- 営業キャッシュフローは債権回収など運転資本減により前年比良化。
- 投資キャッシュフローはエンタープライズソリューションのサービス事業強化の投資など。

(単位：億円)	23年度 実績	22年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	22	0	+22
II 投資キャッシュフロー	△59	△49	△10
フリー・キャッシュフロー(I + II)	△37	△49	+12
III 財務キャッシュフロー	△38	43	△81
現金および現金同等物の残高	308	342	△34
固定資産取得額	57	39	+18
減価償却費	32	29	+3

- 8ページ、キャッシュフローです。
- フリーキャッシュフローは37億円のマイナスとなりました。先ほどご説明しました通り、棚卸の増加もありますが、売上債権の回収による運転資本減により前年比では+12億円改善しております。
- なお、現金同等物は308億円と必要な手元資金は確保しております。

## 2023年度 通期業績予想の修正

- 2023年6月20日公表の中国子会社の訴訟に関する影響額を精査し、1Q決算に反映。あわせて2023年5月10日公表の通期業績予想を上方修正。

(単位：億円)		23年度今回予想	23年度前回予想	前回比	22年度実績	前年差
パブリックソリューション	売上高	980	980	±0	957	+23
	営業利益	40	40	±0	34	+6
エンタープライズソリューション	売上高	1,780	1,780	±0	1,129	+651
	営業利益	155	115	+40	15	+140
コンポーネントプロダクト	売上高	810	810	±0	846	△36
	営業利益	20	20	±0	16	+4
EMS	売上高	830	830	±0	753	+77
	営業利益	25	25	±0	23	+2
その他	売上高	0	0	±0	5	△5
	営業利益	△15	△15	±0	4	△19
消去・本社費	営業利益	△75	△75	±0	△68	△7
連結合計	売上高	4,400	4,400	±0	3,691	+709
	営業利益	150	110	+40	24	+126
	経常利益	125	85	+40	△3	+128
	当期純利益	80	40	+40	△28	+108

2Q~4Q  
前提為替レート  
USD : 141円  
EUR : 153円

- 9ページ、通期業績予想です。
- 先程ご説明した貸倒引当金の第1四半期決算への反映を踏まえ、2023年5月10日公表の業績予想を修正致します。
- 当初の事業計画数字に貸倒引当金の戻入の額を、営業利益以下各段階利益に上乘せし、それぞれ40億円を期首予想値から上方修正致しました。
- その他については期首予想値から変更ございません。
- 纏めますとこの第1四半期は、事業ごとにばらつきはあるものの生産難の影響から立ち直り前年比での増収は実現したが利益、在庫の面ではまだ回復途上です。
- 課題が続いた在庫については第2四半期までに計画数値とのギャップをミニマイズしてまいります。
- また利益についてはこれから更に増加する物量を確実に出荷させ、増収に向けたより強い足取りを第2四半期でお見せしたいと考えております。
- 以上簡単ではございますが第1四半期の決算説明とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

## (補足) セグメント別売上高/営業利益 (四半期別推移)

(単位：億円)		22年度					23年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q
パブリック ソリューション	売上高	193	198	228	337	957	193
	営業利益	△3	△3	0	40	34	△1
エンタープライズ ソリューション	売上高	233	245	297	354	1,129	274
	営業利益	△16	△11	1	41	15	19
コンポーネント プロダクト	売上高	192	218	214	223	846	170
	営業利益	△1	16	△1	2	16	△8
E M S	売上高	162	185	198	209	753	177
	営業利益	1	4	9	9	23	6
その他	売上高	1	1	2	1	5	1
	営業利益	1	1	1	1	4	△1
消去・本社費	営業利益	△12	△17	△18	△22	△68	△14
連 結 合 計	売上高	<b>781</b>	<b>846</b>	<b>938</b>	<b>1,125</b>	<b>3,691</b>	<b>815</b>
	営業利益	<b>△30</b>	<b>△10</b>	<b>△8</b>	<b>72</b>	<b>24</b>	<b>0</b>

## (補足) 各セグメントの主な製品およびサービス

パブリック ソリューション	<ul style="list-style-type: none"><li>• 道路 (ETC/VICS)、航空管制、防災、消防</li><li>• 中央官庁業務システム、政府統計システム</li><li>• 防衛システム (水中音響/情報)</li><li>• 航空機器</li><li>• インフラモニタリング</li><li>• キャリアネットワーク、映像配信、5G・ローカル5G</li></ul>
エンタープライズ ソリューション	<ul style="list-style-type: none"><li>• ATM、現金処理機</li><li>• 営業店端末、予約発券端末、チェックイン端末</li><li>• ATM監視・運用サービス</li><li>• 金融営業店システム、事務集中システム</li><li>• 鉄道発券システム、空港チェックインシステム</li><li>• 製造システム (ERP/IoT)</li><li>• 工事・保守サービス</li></ul>
コンポーネント プロダクツ	<ul style="list-style-type: none"><li>• AIエッジコンピューター、センサー、IoT NW</li><li>• PBX、ビジネスホン、コンタクトセンター</li><li>• クラウドサービス</li><li>• LEDプリンター</li></ul>
EMS	<ul style="list-style-type: none"><li>• 設計・生産受託サービス</li><li>• プリント配線板</li></ul>

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって、実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：  
各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。  
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。